

(仮称) 母島太陽光発電所建設事業・(仮称) 母島無電柱化事業
村民説明会での主な質問と回答

1. 日時：1回目 令和4年12月19日(月) 19:00～20:00
2回目 令和4年12月22日(木) 19:00～20:00

2. 参加者

説明側：東京都産業労働局・小笠原支庁、東京電力パワーグリッド株式会社、小笠原村環境課
住民出席者数：1回目 母島13名、父島3名 (WEB会議)
2回目 母島 7名、父島4名 (WEB会議)

3. 質問と回答

【(仮称) 母島太陽光設備建設事業】

1. 工事時期について

- Q 候補地Cの工事はいつまで延期するのか。
A オガサワラカワラヒワの個体数が確実に増えた状況になり、かつ有識者から問題ないと判断された時点で再度進めていく。
Q 本事業はCサイトを整備しなくても成り立つのか。
A 太陽光による電力供給時間が短くなるが、A Bサイトを先行して整備し、事業を進めることは可能である。

2. 太陽光パネルや蓄電池について

- Q ソーラーパネルの反射や熱の問題が生じたら対策をしてもらえるのか。
A パネル反射による影響はないと考えているが、西日が強い箇所など必要な箇所には低反射パネルによる対策も考えている。
Q 太陽光設備などの耐用年数はどれぐらいなのか。
A 太陽光パネルは17年、蓄電池は15年を想定している。
Q 太陽光パネルは台風などの強い風に耐えられるのか。
A 風速は最も留意しており、建築基準では小笠原村は42m/sec(最大瞬間風速60m/sec)で設計となる。母島の過去の風速実績がないため、本事業では父島のデータを参考に、56m/sec(最大瞬間風速約88m/sec)で設計を考えている。
Q 近年の大雨の影響で内地の太陽光発電設備では敷地内の排水が困難となり土砂流出の課題があると聞いているが、大雨の排水も考えているのか。
A 豪雨を想定した排水計画を作成している。
Q 一日にどれぐらいの日射量があればディーゼル発電を使わなくて済むのか。
A ディーゼル発電によるバックアップは常に必要となる。A、Bサイトで1,400キロワットの出力を蓄電池にため込み夜間に放電する。天候状況による不足分の電力消費をディーゼルで賄う。
Q 既設のディーゼル発電はバックアップで存在し続けるのか。
A 将来的に発電効率の良い設備となればディーゼル発電は必要なくなる可能性もあるが、直近でディーゼル発電を撤去することは考えていない。

- Q 太陽光パネルの廃棄処分が問題となっており、カドミウムなどの有害物質の処理についてはどのように考えているのか。
- A 昔の太陽光パネルは有害物質が入っている可能性があるが、現在の材料としては有害物質が削減されていると思われる。有害物質を含む太陽光パネルは産業廃棄物として適切に処分する。
- Q Aサイトのパネルの枚数はどれぐらいになるのか。
- A ABサイト合わせて約 2,700 枚となるがメーカーによって変動がある。より高効率なパネルを採用することも検討している。

3. 土地利用計画について

- Q Bサイトは御幸之浜園地へ道として利用しているが工事期間中は利用できるのか。
- A 工事期間中Bサイト内は車両通行止めとなるため、御幸之浜まで歩いていただくこととなる。

4. 環境影響について

- Q 環境への負荷について定量的な把握をしているのか。
- A 本事業の規模では環境アセスメントの対象ではないがアセスガイドラインには準拠している。
- Q アセス評価を官公庁ホームページなどで公開する予定はあるのか。
- A 公開できる内容については検討する。
- Q 環境緑化工事でどのような景観を目指すのか。
- A AサイトもBサイトもなるべく道路から太陽光パネルが見えないようフェンス沿いに植栽を予定しているが、植栽木が育つまでは数年かかる。植栽する樹種や本数などの内容は詰めている。
- Q 緑化工事で終わりではなく、植栽は将来的にも維持していただきたい。
- A 東京電力パワーグリッドの設備として将来的にも管理していく。

5. CO2排出量について

- Q 今までディーゼル発電のみであったものをプラス太陽光で発電すると、海外から資機材を運ぶことで多くのCO2が排出されることとなり、結局はディーゼルのみの方がCO2の排出量が少ないのではないか。
- A ディーゼルと太陽光の大きな差は、ディーゼルは作った後もCO2を排出するが、太陽光はCO2を排出しないことである。ディーゼルの機械を作る過程、太陽光パネルを作る過程で差はないので、設置後もCO2を排出しない太陽光の方が削減できると考えている。

6. 電気代について

- Q 電気代はどうか。パネルが破損した場合の処分費も高額なので電気代は上がるのではと懸念している。
- A 電気料金は離島の電気料金の平準化の措置というユニバーサル方式を採用しているため、本事業による変更はない。処分については太陽光発電、蓄電池ともにリサイクルをしていくことで考えている。

7. その他

Q オガサワラカワラヒワが絶滅してしまった場合も計画は進めるのか。

A 有識者と連携を図りながら検討する。

Q 有識者会議の検討内容を村民にも共有していただきたい。

A 公開できる内容については検討する。

Q 防災の観点から集落より北部の東港や北港で電気が使えるようにすることは検討していないのか。

A 現状では考えていない。必要に応じて小規模な太陽光パネルなどで局所的に対応できるよう検討する。

【(仮称) 母島無電柱化事業】

1. 無電柱化の範囲について

Q Cサイトの太陽光発電工事を着手するまでCサイトの無電柱化工事はしないのか。

A Cサイトの太陽光発電工事が延期となっても、電柱倒壊などの防災対策が目的であるため、無電柱化工事は予定どおり進める計画である。

Q 将来的には集落内路線も無電柱化を目指すのか。

A 集落周辺の都道については、2030年までの優先整備区間となっているので、無電柱化を順次整備していく。村道内については関係者で調整中である。

2. 無電柱化の工法などについて

Q 過去に父島ではシロアリに配管を食われたことがあったが把握しているのか。

A 平成25年度に父島の無電柱化整備区間で停電があり、シロアリの被害があったことは把握している。電線を被覆する素材の匂いにシロアリが集まったと考えられており、別の素材の被覆に交換して以降被害は起こっていない。

Q 台風や豪雨の想定をしているか。無電柱化したところが浸水して停電する問題はないか。

A 設備自体に耐水性能があるため問題はない。

以 上